

「お年玉どこいった！？」①

—2 稿—

2025/4/1

米俵

〈人物表〉

橘 康太	(12)	長男・小6
橘 ひより	(12)	長女・小6
橘 慧	(10)	次男・小4
内野 稔	(74)	子供たちの祖父・さと子の父
橘 さと子	(40)	母親

1. 内野家・外観(昼)

日当たりの良い大きめの一軒家。玄関先には溶けかけの雪と雪だるま。

玄関ドアには、しめ縄が飾られている。

2. 内野家・室内(昼)

2階の和室の客間。

橘康太(12)、真剣な表情で、スマホを見つめる。そばには、お年玉袋と五千円札が置かれている。

スマホ画面と五千円札を見比べ、溜息をつく。

1階から、康太を呼ぶ声が聞こえてくる。

女性の声「康太、ちよっと来てー」

康太 「(大声で)なにー? 今、無理。忙しい」

女性の声「いいから、早く来て」

康太、大きく溜息をつく。

スマホを置いて部屋を出ていく。スマホ画面には、

「新作ゲームソフトのお知らせ」

乱暴に階段を降りていく音がする。

× × ×

康太、部屋に戻ってくる。すぐにスマホを**確認する**。

画面をスクロールしながら、お年玉袋があった場所に手を伸ばす。**が、何も無い。**

**探すように**何も無い場所を繰り返し返しさせる。

見つからず、手元の方に視線を移す。

驚いて、立ち上がる。

慌てた様子で、ボディチェックするように体を触る。

ポケットを叩き、中身をひっぱり出す。

テーブルの下を確認するが、何も無い。

旅行バッグの中を確認するが、入っているのは服や

下着のみ。

康太、思い出すようにしばらく考えこむ。

大きく、深呼吸する。

ゆっくりと棚の下を覗き込む。

飾りのついたヘアゴムが見つかる。

それを乱暴につかむと隣の部屋の襖を開ける。

康太 「ひより!」

くつろいだ状態でスマホをいじっていた橘ひより)

11)、驚く。体勢を整えながら、

ひより 「(不機嫌そうに)ちよっと。急になに?」

康太 「ひより、俺のお年玉返せよ」

ひより 「は? 知らないし」

康太、ヘアゴムを投げて、

康太 「証拠が出てんだよ」

ひより、ヘアゴムを拾って、少し嬉しそうに、

ひより 「あっ、私のやつ」

康太 「早く返せ!」

ひより 「だから知らないって」

康太 「じゃあ、なんで俺の部屋にそれがあんだよ」

ひより 「あんたが盗ったから」

康太 「ちげーよ」

ひより 「ってか、これ失くしたの去年なんだけど」

康太 「嘘つけ」

ひより 「ホントだよ……」

康太、ひよりの旅行用バッグをあさろうとする。

ひより 「やめてよ!」

と、康太を突き飛ばす。

康太、ひよりを睨む。

ひより、面倒そうに、

ひより 「あのさー、お年玉って……ママでしょ?」

康太 「え?」

ひより 「私のもないし」

康太 「は?」

ひより 「いつもママが、預かりまーすって持ってくじゃん」

康太、黙っている。

ひより 「ママだっと思うでしょ、普通」

ひより、わざとらしく溜息をついて、

ひより 「康太ってさ、本当さういふところあるよね」

ひより、ゆっくりと立ち上がり、康太に近付く。

康太 「なんだよ」

ひより、煽るように、

ひより 「決めつけてさ。俺が絶対正しい、みたいなの？」

へアゴムを目の前でちらつかせて、更に煽る。

ひより 「たったこれだけで？ 私が？ お年玉を盗った犯人？

ざこ探偵なんですけど」

康太、こぶしを強く握る。

康太 「……それだけじゃない」

ひより 「なんですかー？ ざこ探偵さん」

康太 「……さっき、母さんといたから違う」

ひより 「はいはい」

康太 「マジだから」

ひより、康太を疑うような目で見る。

康太 「聞こえただろ？ 母さんに呼ばれて……」

ひより 「で？」

康太 「戻ったら、なくなってた。(強調して)お年玉だけ」

ひより 「ママとずっと一緒だった？」

康太 「一緒」

ひより 「下で、何してたの？」

康太の目が泳ぐ。

康太 「ちよっとした……用事だよ」

ひより 「何それ」

康太 「だからー、5分もかからずに戻ったんだよ」

ひより、康太を上から下まで見ながら、

ひより 「なんか、隠してない？」

康太 「……」

ひより、康太をじっと見る。少し考えて、

ひより 「まあ、いいや。とりあえず、ママに確認だね」

康太 「ああ……」

2人、部屋を出ていく。1階におりていく後ろ姿。

### 3.

#### 内野家・リビング(昼)

橘さと子(40)、テレビ前のソファでくつろぐ。

テレビではサバイバル番組が流れている。

康太とひより、リビングに入ってくる。  
さと子、2人に気付いて、

さと子「どうしたの?」

康太「あ、いや……」

康太、ひよりを肘でつつく。

ひより「ママ、確認なんだけどさ……」

ひより、つばを飲み込む。

ひより「お年玉って、まだ渡してなかったよね?」

さと子、気付いたように、

さと子「あっ、そうだった。預かるから。持ってきて」

ひより、驚いて、

ひより「勝手に持ってたって……ない?」

さと子「そんなことするわけじゃないでしょ。毎年、許可とってるん

だから」

康太、ひよりを小突いて、

康太「ほら」

ひより、動揺した表情のあと、うなだれる。

さと子「なに? どうしたの」

康太「ごめん、なんでもない。後で持っていく……」

康太、ひよりを引っ張り、出て行くようにする。

さと子「ねえ、ちょっと待って」

ひより、ビクッと体に力が入る。

康太、振り返らずに、

康太「なに?」

さと子「まさか……もう使ったとかないよね?」

2人を見据えるさと子。

康太、振り返り、ひきつった笑顔で、

康太「まさか。そんなわけ——」

康太が答え終わる前にリビングのドアが開く。

内野稔(74)、何かを探すように部屋に入って、

稔「さと子、俺の携帯とメガネ、知らないか?」

さと子、テレビに視線を戻して、

さと子「また失くしたの?」

稔「なんだか、すぐ失くなるんだよねー」

稔、二人に気付いて、  
稔 「お、どうした？」

ひより、康太、稔を見上げる。

ひより 「おじいちゃん……あのね」

と、何か言おうとする。

康太、慌てて、

康太 「じいちゃん、メガネはそこにあるよ」

と、稔の後頭部を指さす。

稔、メガネを見つけて、

稔 「(笑いながら)なんだ、ここか」

康太 「ごめん。スマホは見えてないけど」

稔 「ああ、どこかにあるだろ。康太とひよりも探し物か？」

康太 「いや、なんでもないよ」

と、ひよりを引っ張っていく。

稔、2階にあがっていく2人に声をかける。

稔 「一緒に、何かするか？」

康太 「ごめん……また後で」

稔 「そうか……声、かけろよ」

康太 「分かった」

ひより、不安気に稔の方を振り返る。

康太 「ひより、いいから」

康太、ひよりを引っ張っていく。

#### 4. 内野家・ひよりの部屋(昼)

ひより、康太の方を見る。

ひより 「お兄ちゃん……」

康太、何も答えない。

ひより 「ママじゃなかった」

康太 「ああ……」

ひより、部屋をウロウロしながら堰を切ったように、

ひより 「どうしょ。絶対ママだと思ってた。いつ？ お年玉失く

すとか、普通ないよね？ ないね。うん、ない。私の人

生で初」

康太、見守る。

ひより、康太に詰め寄って、

ひより 「つてかさ、ママはいつも許可とってたの？ 預かりまー  
すってあれは許可なの？ 断っていいやつなの？ ダメ  
でーすって言えるの？ お兄ちゃん、言える？」

康太 「言えないだろ」

ひより、力なく座り込む。

ひより 「私のお年玉は、どこ？」

沈黙。

康太、ひよりの肩に手をおいて、

康太 「お前さ、じいちゃんに言おうとすんなよ」

ひより 「だつて……」

と、康太の方を見る。

康太 「じいちゃんは、優しいんだよ」

ひより 「うん。あと、たまに天然……」

康太 「だから、もし言ったら、またくれちゃうだろ？」

ひより 「だね……」

康太 「それに、お年玉失くしたつて……」

ひより 「ヤバいね」

康太 「ガチでやばい。いいか。これから俺たちは……」

二人 「運命共同体」

ひより、康太、握手する。

康太 「よく考えろ」

ひより 「この家の中に犯人がいる」

康太 「俺でもない」

ひより 「私でもない」

康太 「じいちゃんでもない」

ひより 「ママでもない」

二人、同時に立ち上がる。

お互いに目を合わせて頷く。

隣の部屋の襖を開けながら、

康太・ひより 「犯人はお前だ！」

橘慧（9）、テレビゲームをしている。

二人を見上げ、不思議そうに、

慧 「え？」

（じじい）